

## 思わぬ出来事

一週間の東京旅②

非日常性が強い旅では、思わぬ出来事でくわすことがある。

妻は日ごろつえを使う

が、車椅子は使用しない。

しかし、広いホテルや空港では車椅子を借りる。

最近はJRでも予約すれば車椅子を用意してくれる。

高齢化社会を迎える。このような福祉が充実さ

れるのはうれしいことだ。

さて、今向の東京旅、往きは徳山駅のホームま

で次女が付き添ってくれ

東京駅のホームには長女

が迎えに来てくれること

になっていたので、車椅子

子は予約しなかった。

十一月五日のぞみが

東京駅ホームに着くと、娘が車椅子と一緒に待つ

ている。「文化の日」の

祝日を含む三連休、構

内はごった返し、この中

を丸の内側まで妻を歩か

せるのは危ないと判断し

た娘が車椅子を手配して

いたのだ。(この日はアメ

リカのトランプ大統領が

来日、コインロッカーな

どは使用禁止になつてい

たが、人出の多さとは無

関係だろう)

JR職員は妻を車椅子に乗せると、ホーム先端にある貨物専用エレベーターで地下へ。着いた所は貨物などを八重洲から丸の内まで横断して運ぶ通路。娘から丸の内南口にあるステーションホテルに行くことを聞いた職員は、かなりのスピードで南口へ一直線に進む。

しばらくすると両側の壁がレンガになり、ガス燈のような電気がついている。ホームの地下にこは一般道として使われていただろう。こうしてレンガ造りの南口にあるホテルのフロントまで運んでくれたのである。

十一月五日のぞみが東京駅ホームに着くと、娘が車椅子と一緒に待つている。「文化の日」の祝日を含む三連休、構内はごった返し、この中を丸の内側まで妻を歩かせるのは危ないと判断した娘が車椅子を手配していたのだ。(この日はアメリカのトランプ大統領が来日、コインロッカーなどは使用禁止になつていが、人出の多さとは無関係だろう)

定刻になると職員が車椅子を用意して来たが、前回とは違い、一般構内を通る。職員に「地下道は通らないのか」と質問すると「東京駅はJR東日本とJR東海が混在し、地下道を使用する際は相手側に了解を取らなければならぬ。きょうは混雑もしてないので一般構内を通る」とのこと。

天下の大東京駅、観光用冊子にも書かれていない「いろいろな」とあるのだ。親切な職員の応対に感謝しながらお口当り。親切な職員の応対に感謝しながらお口当り。内駅舎、事前に本を読んでも、南口と北口は何度も通つたが、中央口を通りたことがない理由を初めて知つた。通つたことがないのではなく通れないのだ。皇居の真正面にいる丸の内中央口は皇室専用施設なのである。

それを知つて改めて丸の内駅前から皇居を眺めよう。中央正面から皇居に向かう道路は実際に広く、両側の美しい街路樹の向こうに皇居がよく見える。

すばらしい私は旅が終わつてから旅の本を読むことが多い。そして「あ

あうなのか」と、もう一度同じ所を訪ねたくな

旅の楽しみの一つである。

では体験することができる新しい出会いは倍増する。今回の東京旅もこの旅になる。



藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)



東京駅100年記念誌